令和６年度（２０２４）第１回出雲市総合教育会議 会議録

令和６年（２０２４）６月２７日（木）午後３時３０分、令和６年度（２０２４）第１回出雲市総合教育会議を出雲市役所３階庁議室に招集した。

次第

Ⅰ　市長あいさつ

Ⅱ　教育に関する諸課題について

「子どもたちへよりよい教育を届けるための学校の働き方改革」

Ⅲ　教育長あいさつ

出席者名簿

出雲市総合教育会議

市　　長	飯　塚　俊　之
教　　育　　長	杉　谷　　学
委　　員	高　橋　　詠
委　　員	川　田　量　子
委　　員	奥　　康　人
委　　員	布　野　和　弘
副市長（オブザーバー）	伊　藤　　功

教育部

副　教　育　長	金　築　健　志
教育部次長（児童生徒支援課長）	山　﨑　　創
教育部次長（学校教育課長）	矢　田　和　則
教育政策課　課長	栗　原　真奈美
学校教育課　主査	岩　﨑　慎　一
学校教育課　課長補佐	園　山　正　樹
児童生徒支援課　課長補佐	小　林　　剛
教育政策課　主査（書記）	池　尻　精　二

市立学校

出雲市立塩冶小学校　校長	岡　﨑　博　文
出雲市立第三中学校　校長	兒　玉　浩　二

（栗原教育政策課長）ただいまから、令和６年度第１回総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、飯塚市長がごあいさつ申しあげます。

Ⅰ　市長あいさつ

（飯塚市長） 本日は、令和６年度第１回出雲市総合教育会議を開催したところ、皆様方には、ご多用の中ご出席いただき、厚くお礼申しあげます。先ほどまで、定例会をされていたと

いうことでありますが、引き続きお願いいたします。

さて、この総合教育会議は、本市の教育の課題や、あるべき姿について、市長である私と教育委員会が情報を共有し、意思統一する場であります。

今回は、今月就任いただいた布野委員も参加していただいておりますので、よろしくお願いいたします。

みなさまもご承知のとおり、昨年度、意見交換を行った不登校対策については、この会議での意見を踏まえ、本市の新たな不登校対策の方向性を示す「出雲市不登校対策指針」として策定することができました。不登校対策については、学校、保護者、地域の理解や連携を進め、すべての児童生徒を大切にする教育をより一層推進することとしております。

そして、近年、教員の人材不足が深刻化しており、本市の小・中学校においては、令和６年度当初に常勤講師が配置できず、非常勤講師の配置となった学校は２６校で、人数は４４人であるという、大変厳しい状況が続いているところです。今日も地元の新聞社が連載をやっておりまして、人口減少時代における教育ということで、本日が最終回でしたが、県下でもそういう状況にあるということです。そうした中で、人材を確保するうえでも、教員が子どもたちと向き合う時間を確保するためにも、教員の働き方改革は課題であり、しっかりと取り組んでいくことが必要なことであると考えております。教育委員会としては、出雲市教職員多忙化解消プランを定めて取組を進めておりますし、特別支援教育補助者や介助者、あるいはＩＣＴ支援員など、教員の負担軽減に繋がる人員配置や、留守番電話機能の導入など進めてきているところでありますが、プランに定めた目標を達成するには至っていない状況にあります。今日は、そういったところを中心に、市内の小・中学校の校長先生から、現状やそれぞれの学校での具体の取組内容について、お伺いする予定としています。

現場のみなさんのお話を踏まえ、本日は、みなさま方と教職員の働き方改革について、忌憚のない意見交換を行いたいと思います。冒頭のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（栗原教育政策課長）それでは早速、協議に入ります。お手元にお配りしております、資料１「出雲市総合教育会議設置要綱」をご覧ください。この総合教育会議の目的につきましては、記載のとおりで、本日は、資料の設置要綱第２条第２号にあります「出雲市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」として「子どもたちへよりよい教育を届けるための学校の働き方改革」について、協議や意見交換をしていただく予定としています。それでは、設置要綱第４条第１項の規定によりまして、市長が議長となり進行を行うこととなります。これからは市長に進行をお願いいたします。

Ⅱ　協議事項

◎教育に関する諸課題について

⑴　協議事項◎「子どもたちへよりよい教育を届けるための学校の働き方改革」

（飯塚市長）ここからは、私が進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。それではさっそく、Ⅱ　協議事項に入ります。協議事項◎教育を取り巻く諸課題についてということで、今回は、「子どもたちへよりよい教育を届けるための学校の働き方改革」をテーマにしたいと思います。まず、事務局からに説明を受けた後に、本日は、
塩冶小学校から校長の岡崎様、第三中学校から校長の兒玉様にお越しいただいております。この後ご説明いただきますので、よろしくお願いいたします。では、まず事務局からお願いします。

（栗原教育政策課長）（資料を用いて説明）

（飯塚市長）続いて、お願いします。

（山﨑教育部次長）（資料を用いて説明）

（岡崎塩冶小学校校長）（資料を用いて説明）

（兒玉第三中学校校長）（資料を用いて説明）

（飯塚市長）ここから意見交換を行いたいと思います。最初の教育委員会の説明、また、小学校、中学校の校長先生方のご説明がありました。どこからでも、どなたからでも結構ですので、よろしくお願いします。高橋委員。

（高橋委員）校長先生にお伺いしたいのですけれども、今の採点ナビ、教育備品費でお支払いになっているということなのですけれど、これはどのぐらいの金額でしょうか。

（飯塚市長）兒玉校長。

（兒玉第三中学校校長）1年間のライセンスということで9万9,000円ということになります。斐川西中学校に尋ねてみたのですが、斐川西中学校は昨年度から導入したということで2年目ということで、割引があるのかなと思ったのですが、割引はないということで、昨年度も今年度も9万9,000円であるということです。

（飯塚市長）それは、1教科ですか。

（兒玉第三中学校校長）そうではなくて、全体です。すべての職員が使えます。システムについて 9 万 9,000 円で購入する。必要な教科の先生方がインストールして使うという形になります。

（飯塚市長）高橋委員、どうぞ。

（高橋委員）なるべく、どの学校も導入してあった方がいいと思います。私も見させていただいた感じでは、改善できる感じなので、あった方がやっぱりいいというふうに先生方も思われますか。

（飯塚市長）兒玉校長。

（兒玉第三中学校校長）少人数の学級、例えば 10 人とか 5 人でやりますと、スキャナで読み込んでといった手順がありますので、それよりも多分、手でやった方が早いかなということはあります。ただ、多人数の学級については、スピーディに正確になるということは間違いないです。

（飯塚市長）どうぞ、川田委員。

（川田委員）2 人の先生方、今日はありがとうございました。参考になりました。なかなか、その心掛けだけではうまくいかないということで、思い切った改善をされていて、非常に参考になりました。子どもたちも早く帰るという小学校の授業時間の減少ということですけれど、90 時間も余剰時間があると、これをなるべく減らして、子どもたちを早く返そうという取り組みをされています。そうすると、もちろん先生方の余裕が生まれると思うのです。けれど、学童クラブの方に子どもたちが長く居るということに繋がると思うのです。それで問題というか、いい面、悪い面があったかもしれないのですけれど、何かあれば教えていただきたいと思います。

（飯塚市長）お願いします。

（岡崎塩冶小学校校長）学童の件については、先ほども、少し話をさせていただきました。やはり時間の調整、帰る時間が低学年の場合、5 時間が 4 時間になると、1 時間弱、早く学童に来ることになります。そうすると学童の職員の方の勤務の関係が変わってくることがあります。それから、人員配置も当然変わってくるということがあります。その辺については、7 月に連絡会がありますので、今年度取り組みを始めて、学童の皆さんがどういう

ふうに感じておられるのか、また、お尋ねしたいと思っております。1つメリットとして考えられるのは、帰る時刻が早くなったことにより、特に上の学年、下の学年ではなかなか難しいのですけれども、子どもたちが放課後の時間、今までは帰ってもすぐ夕方になって、外に出かけたりすることはなく、それから、自分が過ごすことが決まっていたと思うのです。帰る時間が早まったことによって、それぞれタイムマネジメント、子どもだけでなくて、ご家庭の方もそういったことを考えていただくきっかけになったのではないかと思っております。

(飯塚市長)続いてどうぞ。

(川田委員)私、斐川町に住んでいますけれど、そろそろ夏休み、学童で働きませんかと声が結構聞かれて、誰か1人でもいませんかと、よく聞かれるのです。本当にここで言う話じゃないかもしれないのですけれど、学童の方々の働く環境も厳しいだろうなというふうに察します。そういうことも一緒に考えていかないと子どもたちのために駄目かなと思っています。

(飯塚市長)奥委員どうぞ。

(奥委員)児童生徒支援課長にお伺いをしたいのですが、ご説明いただいた資料の中で、資料2の2ページになりますが、部活動指導員の確保に努めるということで、数字が挙がっておりますけれども、現状としては各学校の方から、あるいは地域の方からいろんなご意見があると思うのです。参考としてそのことをお聞かせいただければと思います。

(飯塚市長)山﨑次長。

(山﨑教育部次長)部活動指導員、令和3年度から配置を進めてきております。今年度については、配置校数が10校、それから、配置している者ですけども22名ということになっております。部活動指導員以外に地域指導者がいます。主顧問にはなれないのですけれど、教員のサポートをする方で、その配置も令和元年度から進めております。これについては、令和6年度、配置校数が10校、配置している者が27名ということです。こちらの方も、学校の部活動を進めるうえで役に立っております。学校の方では、この部活動指導員とそれから地域指導者ともに、有効に活用していただいております。それによって教員の負担も軽減しているという声を聞いております。地域、保護者の方からですけれども、部活動指導員になって、競技力が落ちたとかそういうことも聞いておりませんし、教員と同じような目線で、指導者の方を見ていただいているのかなというふうに思っております。すみません。

（飯塚市長）奥委員。

（奥委員）ありがとうございました。

（飯塚市長）高橋委員。

（高橋委員）この働き方改革ですとか、先生たちのいろんな業務が多かったりする中で、これから教員にどんどんなって欲しいっていう気持ちがあります。今、大学生とかが、何か、大変大変と聞くと、教員になっていいのかなっていうふうに思うと思います。例えば私の娘がそう言ったときに、大丈夫かなと。いろいろな大変なことばっかりと考えると思うのですが、校長先生方がお働きになっている中で、学校で一番何を困っておられるか。出雲市に対して、出雲市で何を取り組んだのなら、よくなるか。一番働くのが大変とか先生の業務が多い中で、一番本当に困っておられることって、大変大変と聞くけれども、伝わってこない。絶対に大変だと思いますけれど、いろんな子どももいて、これを一番やって欲しいなみたいなことって何なのかが、ちょっと私はすごく知りたいなと思っているのです。今、いろんな改革をする中でも、これからでもいいのですけれどもちょっと一番何に困っておられるかをお伺いしたいです。

（飯塚市長）それぞれお願いします。

（兒玉校長）正直申し上げますと、やって欲しいことっていうのは、教員定数を変えていただきたいということです。当然、1人当たりの持ち時数が少なくなれば、その時間が、自分で研究、明日の準備をする時間ができます。今、県でも、市の方でも説明がありました。いろんなサポートしていただく先生方をたくさん配置していただいています。その上で、なかなか授業ということになると教員という形になります。やはりそこのところ、特別支援学級、通常学級でも、定数が変わると、やはり変わるかなというふうに思います。一方で、今、部活動が大きく変わる流れになっています。今は、移行集中期間みたいな形になっていますが、あれが変わると多分、中学校については放課後のところの時間ができて、大きく変わるのではないかというふうに思っております。個人的な意見です。

（飯塚市長）岡崎校長先生。

（岡崎塩冶小学校校長）私は、ブラックと言われることが、まず一番困ると思っています。そうすることによって、そこにばかり目がいってしまいます。実際に勤めると、そんなことないと思ってもらえると思うのです。勤める前、特に、教師を志している人たちが、ど

うしてもそのことばかりが頭に入ることによって敬遠してしまう。結局、教員の志望者が減る、倍率が下がると。先ほども兒玉先生もおっしゃいましたけども、定数が埋まらないと。そうなると、非常勤講師で、数を埋めていく。校務分掌が担えない。どんどん負のスパイラルに入っていく。私は、この改革と言われても、待ったなしだと、今、やらないと本当に人が集まらない。人が集まらないから、いろんなことで困っているのではないかと私は思っています。ですから、今すぐやる、現場はできることをやって、変えていくと。それが魅力化に繋がるように、現場も努力していかなければなりません。もう１つは、今日、委員会の話でもありましたけども、学校が担える部分とそれ以外、例えば保護者の皆さんに担っていただく部分、そういう役割分担をはっきりしていけるといいなというふうに思っています。

（飯塚市長）何か、教育委員会が聞いておられるようなことはないですか。今は、直接の現場の先生からだったですけれど。

（山﨑教育部次長）やはり、現場から聞く意見は、先ほどもありましたが、教員の数を増やしてくれということでございます。もう１つは、教員の給料を増やして、魅力のある仕事だということも併せて伝えていくことが必要なんじゃないかというような声は聞くことがございます。

（飯塚市長）奥委員。

（奥委員）今のこの取組もそうなのですけれども、この取組をしているのだっていうことを、前回の定例会でも話したつもりなのですけれど、「ともに」というキーワードがあると思います。地域の方にも、こういうことやっているのだっていうことの理解を深めていただくのに、行政の皆さんにも努力していただきたいと思います。やっぱり、知らないことが多すぎます。他のこともそうなのですが、正直申しあげて、出雲市のホームページも立派なものではないと思います。こういった情報をきちんと、地域、市民の方々に、こういうことやっていますよということで、子どもたちを応援してやれるような体制をとっていただければというふうに思います。

（飯塚市長）教育長。

（杉谷教育長）今、ホームページの魅力はあまりないということでした。前回の定例会でも、ご意見いただきました。実は、私も昨年度来、とにかく見える化をしていくということ。以前よりは、いろんなやっていることが市のホームページ上から見られるようになってきたと思っています。当時、出雲市の不登校対策と検索しても、挙がってこないというよう

なご意見を市民の方からもいただいていました。今回、新しい不登校対策指針を作って、すぐホームページから検索したら、そのワードが出てくるように、それから広報でも、1ページ載せました。市が取り組んでいることを市民の皆さんにできるだけわかりやすく、こういうずらずら言葉で書いたものじゃなくて、ポンチ絵的に図を使いながらわかるようにして発信することをやっているところです。今年の6月号の広報誌に載った不登校対策指針の桜のような図案のものは、ホームページでも見られるようにしています。今、そういうことを少しずつ改革していっています。まだまだとおっしゃるところは、十分わかっています。今日のテーマであるこういう学校の取組にしても、市の取組も含めて、発信をしていくことが必要かなというふうに思います。

(飯塚市長)奥委員。

(奥委員)ありがとうございます。あと、ブログも、拝見しています。ただ、更新をしてない方々も多いと思います。更新をしないと人は見ません。これは授業も同じだと思いますけれども、何でもいいのです。ちょっとずつでも、更新されたらいいなと思います。

(飯塚市長)杉谷教育長。

(杉谷教育長)そこは、働きかけていきたいと思います。今日、岡崎校長はブログを更新して、ここへ来ておられます。今日の昼からは、保幼小の連絡会だったようですけれど、早速それをブログに上げて、ここに来られている。そういう頑張っているところがあります。そうでないところはちょっと発破かけていきたいと思います。

(飯塚市長)市政の広場に、教育委員会が出演されたことがあるのでしょうか。矢田次長。

(矢田教育部次長)先日、5月に保幼小連携の関係で、保育幼稚園課、子ども政策課と一緒に取組の方を紹介させていただきました。

(飯塚市長)そういう機会もあれば、単独でなくてもいいのでお願いします。布野委員。

(布野委員)本当に、私も毎日学校行っています。先生方、本当に忙しいです。毎日学校へ行っているから、私が受け付けをして、その保護者なりいろんな相談業務一手に受けて、この問題は、校長先生、これは学年主任さんとか、あとは話の内容によって、どこへ持っていくかを明確にした方が先生方その間、時間が取れるような気がしています。私も毎日プールのボランティアをしていますけれども、子どもさんが入っているシャワーなど、その準備作業的なもの、泳ぐときのビート板の準備など、先生方がバタバタしている時間に

自分がやると、先生方はありがとうございましたと言ってくれる。だから、そういうのは、きっちりボランティアといっても、ただ単に監視するだけじゃなくて、お手伝いの一つで依頼してもいいのかなと思ったりもします。そういう準備的なものがわかれば、事前に言っておいてもらう、どんどん動かしてもらった方がありがたいし、ボランティアをやっていても、気持ち良いなという気がしています。ある子どもさんが学校に来る予定でしたので、私がボランティアで帰る途中、担任の先生が布野さんすいません、今日誰々さん来る予定なのですけれども、まだ来てないのです。お母さんに連絡取っても、連絡取れないで子どもさんのメールに打ったのだけれども、既読にならない。そういうときに、布野さん見てきてもらえませんかと。いいですよっていう感じで、私は、そのあとすぐその子の家に行って、ピンポンして、子どもさんが出てきたので、「こんにちは。今日なんか学校に来るって言っていたのだけれども、先生心配していたよ」と一言言いました。家に居るのだったら言っとくからと。担任の先生にこういうふうなことがありましたと伝えました。その子にとっては、私の会うことは、普段からあることだったので、そんなに違和感もなく、ストレスがかかるようなこともありませんでした。そういうことをやっていますから、本当に地域でできることと、やっぱり分けてもらって。スリム化するにしても、我々、先生も遠いところの方と、近い方もいらっしゃると思うので、その通勤の時間体ももうちょっと考えて、いい方向性があればと思います。部活動の部分も、河南中の監督は、野球で知り合った高校のときの友達先輩後輩で、地域からの指導者として２人ぐらい入っていました。やっぱりそういう友達、先輩後輩という地域の地元に帰ってきている方もいらっしゃる。そういったところの情報の中で、説明しておいたり、言っておいたりすればいいと思います。もともと野球が好きだったり、サッカーが好きだったり、そういった先輩ＯＢが声かけで繋がって結構、応援してもらえることがあるのではないのかなという気はしています。私も実際にどこまでどういうふうになっているかわかりませんけれども、地域の魅力というところではやっぱり、そういった方々と連携を取ることによって、学校が変わってきたとか、いろんなことが見えてくるところがある。先生の見方と、我々市民の見方と、いろんな役員になっている方、学校理事会の方とか、そういう方々を見てくると、徐々にどんどんと学校が変わってきた、子どもたちが変わってきたというのが見えてくる。そうすると、地域も変わって学校も変わるという意味では、いいのではないかなと思っております。

（飯塚市長）兒玉校長。

（兒玉第三中学校校長）学校は、様々な方に入っていただいています。なかなか、先生方は遠慮深いです。なかなか、人を使って、お願いするっていうことをどうしても苦手といいますか、遠慮してしまうので、そういったことが起こるのではないかなというふうに思っています。今、スクールサポートスタッフという方で、印刷の業務であるとかいろんなこ

とをしていただく方がいらっしゃるのですけれども、最初の頃は、こういうお願いしていいですかみたいな、本当に簡単なことしかなかなかお願いできなかった。お願いしますということに、なかなか慣れていないところがどうしてもあるのかなというふうに思います。それから中学校の部活動のことを言っていただきましたけれども、各中学校では、いわゆる外部からの指導者の確保、先ほど活動指導員であるとか地域指導者とあったのですけれど、確保は非常に難しいです。今、第三中学校なのですけれど、部活動指導員という方はゼロです。地域のいわゆる地域指導者っていう方が複数いらっしゃるのですけれども、なかなか顧問の先生に代わって、大会への引率であるとか、ああいったことを担っていただく方っていうのは、本当に貴重な存在です。ただ、おっしゃるように学校の出身の方であるとかいう方については、地域指導者という形で学校に入っていただいたりしています。そこのところの確保というのは、学校でも努力をしていかなければいけない。そして、例えばブログという話があったのですが、学校の広報でも、いわゆる公募といいますか、ああいうことも必要かなというふうに思っています。大会へ出かけると、資格ということをみられます。審判の資格がないといけないとか指導者の資格がないといけないという制限もあったりすると、余計にちょっとハードルが高くなるという、現実は、あるかなと思います。

（飯塚市長）副市長。

（伊藤副市長）現場の声としてお聞きしたいのです。給特法があって、ある程度教員のそういう働き方というのは、超勤を前提としたものなのですけれども、そういう特殊な職場だと思っています。4%が 10%になって、20 時間ぐらい目指すというようなことが書いてありますけれど、大体見合うのですか、金額的に。

（飯塚市長）岡崎校長。

（岡崎塩冶小学校校長）これは個人的な意見なのですが、調整額を上げてもあまり意味がない。基本給が変わらないと意味がないかなと思っています。先ほど、時間外勤務時間の話をさせていただきましたけれど、個人差がかなりあります。定時で帰る職員もおりますし、8 時過ぎまで頑張っている職員もいますし、民間と学校と違うのは、定時で帰ることが、何か罪になる意識が働いている気が多少します。民間企業であれば定時が当たり前で、時間外勤務を程度の時間してしまうと、上司が指導を受けるというようなことになっていると思うのですが、学校では、あまりにも超過勤務が多すぎると、管理職の方から話をするのですけれども、それを当然のごとく、調整額で 20 時間当たり前のように入れるのはちょっと違うかなと思っています。

（飯塚市長）兒玉校長。

（兒玉第三中学校校長）正直なところ、嬉しいことは全員嬉しいと思います。4%が 10%になるということは。ただ、それによって、時間外勤務が少なくなる、そういったことには直接には全く繋がらないと思うのです。やはり、教員の業務というところを見直しであるとか、定数の見直しであるとかを合わせてする。そういったところに踏み込まないと、なかなか改革というのは進んでいかないのではないかなと思います。

（飯塚市長）副市長。

（伊藤副市長）塩冶小学校のペーパーの中に、学習指導要領による標準時数が週 30 時間増えたということが書いてあります。一方で、標準時数と余剰時数ということで、27 時間というふうになっています。その 3 時間という指導要領上のギャップ、３時間とかは夏休みとかそういうところで調整されるのでしょうか。

（飯塚市長）岡崎校長。

（岡崎塩冶小学校校長）先ほどお話をさせていただいて、1 つは朝学習の時間を、15 分の時間で区切っております。時数でカウントすることによって、週に 27 時間になっていますけれど、実際は 28.3 時間ということになります。ただ、時間的なもの、これまで朝活動として活動していたものを、朝学習に変えております。学習の時間、そのものが、実質的なものは、さほど減っていないのです。コマ数で言うと、30 が 27 に減っていますので、子どもたちの自学が増えたということになって、そこが大きく感覚的に違ってくるということです。

（飯塚市長）副市長。

（伊藤副市長）児童クラブの話が出ました。4 時間で帰ると、何時に子どもが学校から帰りますか。

（飯塚市長）岡崎校長。

（岡崎塩冶小学校校長）低学年は 2 時頃に下校です。2 時 5 分に下校です。5 時間の場合は、3 時前です。2 時 30 分くらいです。

（飯塚市長）副市長。

（伊藤副市長）さきほど、児童クラブとの調整が必要だとおっしゃいましたけれども、基本ほとんどの児童クラブが 2 時ぐらいから勤務しておられると思います、指導員さんは。やっぱり調整が必要なってきましたか。

（飯塚市長）岡崎校長。

（岡崎塩冶小学校校長）私が聞いたところによると、おっしゃった通りだと思うのです。子どもを受け入れる準備があって、少し早めに集まるということがあった。それまでの時間よりも 40 分以上早く学童の方に行きますので、そうすると、これまでよりも時間が変わってくるということがあったというふうに聞いています。

（飯塚市長）他ございませんか。それでは、今日の協議事項であります、子どもたちによりよい教育をさせるための学校の働き方改革というテーマについては、これで終了させていただきたいというふうに思います。あと全体的に何かございましたら、お願いしたいというふうに思います。

（各委員）なし。

（飯塚市長）今日は、両校長先生ありがとうございました。この教育委員会が示した改革の中に、十分理解していないことなのですけれども、非常勤講師は校務分掌を扱えないということがあって、それが扱えれば、少し負担が減るのかなと思って聞いていたのですけれども、この国の方針の中で、そういうようなところは少しずつそちらの方にでも少し賄えるというふうになっていくとか、この部分はこういうふうに振り分けることは可能であるとか、そういうことが、話し合われているのですか。この議論の中に、そういうようなところで負担軽減をしていくというようなことがあるのでしょうか。

（山﨑教育部次長）そのお話は聞いたことがなくて、非常勤講師は、主任につけないというのが法で決まっています。それを変えるのはなかなか難しい状況かなと言うふうに思っています。

（飯塚市長）今日は、小学校、中学校の現状を聞かせていただきましたし、それを踏まえて取り組みをしていらっしゃることを丁寧に説明いただいたところであります。いろいろなところを取り入れながら、システムの話であったりとか、2 学期制であったりとか、また、評価の期制というのもあったと思います。いろいろなところで教育委員会はじめ、研究をしていって、全体的に取り入れていけるようなものについては、しっかりと取り入れる。

先生方の負担軽減に繋げる。そして、子どもたちの学習環境も、合わせて良くなるような取組をしていきたいというふうに思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。それでは、進行の方を事務局にお返しします。

（栗原教育政策課長）たくさんのご意見ありがとうございました。私たち事務局も、皆様からいただいたご意見をもとに、さらに検討を進め、教職員の働き方改革が進むよう取り組んでまいりたいと思います。また、この総合教育会議で議論したい内容項目等がございましたら、次回開催までにお知らせいただければと思っております。それでは最後に、杉谷教育長よりご挨拶申しあげます。

（杉谷教育長）今日、1つのテーマに絞っての議論でございましたけれども、学校の具体的な取組をお聞かせいただいて、市長、教育委員の皆さんと意見交換できたことが、大変有意義だったかなと思っています。冒頭、岡崎校長が話されました。行きたい、行かせたい、勤めたいということで、意見の中にもあった、学生たちが教員に向かっていけるような、そういう職場であって欲しいというふうに、皆そう思っていると思います。そのために、一生懸命、学校も、私どももこれまでやってきていますし、これからもやっていきます。やはり、それをしっかりと情報発信しながら、出雲市で勤めたらこんなところがいいなっていう、そんなものが、教員の卵である教育学部生はじめ、大学生たちに伝わっていけばいいかなというふうに思います。もっと言えば、学校にいる小学生、中学生、高校生が、楽しそうなというか、いきいきやっている先生の姿を見て、ああいう仕事もいいなと思ってくれて、そこを目指してくれればいいなと思っています。いずれにしても、総力を挙げてやっていかないとなかなかそういう雰囲気なり、環境が作れないと思っています。教員定数の話もありましたが、授業時数が多すぎる、内容が詰め込み過ぎじゃないかという議論も一方では始まっていますので、今後、国のそういう議論がしっかり煮詰まっていくように、要望なりは続けていかないといけないかなと思っています。中学校の方でもこの評価の2学期制というところに取り組んでいこうとしているというところを、本当に小学校とともに議論していける、一つの土台が整ったかなというふうに思っています。我々としても、今日ご提案いただいた内容に基づいて、検討すべきことについては速やかに、始めたいというふうに思っております。本日は、貴重な時間、様々なご意見いただきまして、ありがとうございました。

（栗原教育政策課長）それでは以上をもちまして、令和6年度第1回総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。

（午後５時１３分終了）